

平成30年4月17日(火)に全国学力・学習状況調査が南越前町内の小学校6年生90名、中学校3年生110名を対象に行われました。今年度は、国語と算数・数学・理科の3教科での実施でした。調査結果については、昨年までと同様、児童生徒の学習状況の改善に役立てるとともに、教育委員会や学校が保護者や地域の皆様と一体となって協力し合うことで、学習効果を一層高める目的で公表いたします。

### 1. 南越前町全小・中学校の学力調査の結果

平均正答率に関しては、昨年同様、町内の小中学校ごとの結果を全国トップレベルの福井県及び全国と比較し、上下各2.5ポイント幅の範囲内を同程度、さらにそれを上回る範囲と下回る範囲とで表わすことで、学習状況等の各項目を比較して課題意識が持てるようにしています。

- (注1) 本町内の小中学校は小規模校が多く、平均正答率を用いて表わすと、その年度の数値が一人歩きしたり、経年変化を追うと学校の序列化につながったりするなど、学力調査の目的を逸脱してしまう恐れが大きいと考え、以下のとおり表しました。
- (注2) 国語・数学におけるA問題とは、主に「知識」(身に付けておかなければいけない基礎的な知識・技能)、B問題とは「活用力」(知識や技能を実生活の中に活用する力)を問う問題のことです。
- (注3) 平均正答率とは、各児童生徒について全設問における正答数の割合を算出した値(個人の正答率)を足し合わせ、児童生徒の人数で割った値のことです。

#### ◆ 小学校(4校)

| 教科 | 領 域   | 本町の結果 |      |
|----|-------|-------|------|
|    |       | 県比較   | 全国比較 |
| 国語 | A(知識) | 同程度   | 上回る  |
|    | B(活用) | 同程度   | 上回る  |
| 算数 | A(知識) | 同程度   | 上回る  |
|    | B(活用) | 同程度   | 上回る  |
| 理科 | *     | 同程度   | 上回る  |

#### ◆ 中学校(3校)

| 教科 | 領 域   | 本町の結果 |      |
|----|-------|-------|------|
|    |       | 県比較   | 全国比較 |
| 国語 | A(知識) | 同程度   | 上回る  |
|    | B(活用) | 同程度   | 上回る  |
| 数学 | A(知識) | 上回る   | 上回る  |
|    | B(活用) | 上回る   | 上回る  |
| 理科 | *     | 同程度   | 上回る  |

\* 本県と全国の平均正答率より+2.5ポイントを上回る(上回る)  
-2.5~+2.5ポイント(同程度)  
-2.5ポイントを下回る(下回る)

\*\*\* ±2.5の幅の設定理由\*\*\*  
例年、この調査の本町の小中学校における標準偏差をみると、2.0~3.0で推移していますので、本町では±2.5の幅を判断基準としています。



### 2. 学力調査結果の成果と課題

各教科の調査結果は、「成果」と「課題」に分類して特徴的な傾向を示し、伸ばす面や改善すべき面を具体的に把握できるものとして示しています。

また、学力調査の結果を判断する基準は、県の平均正答率から±2.5ポイントの幅とし、2.5ポイント程度上回っているものを「成果」2.5ポイント程度下回っているものを「課題」として、特に顕著なものを取り上げました。

#### ◆ 小学校の結果について

##### 【国語】

| < 成果がみられる >  | < 課題がみられる >   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く</li> <li>・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年別漢字配当表に示されている同音異義語を正しく書く</li> <li>・文章全体の構成の効果を考える</li> </ul> |

「読むこと」「書くこと」を中心とした国語科としての教科指導を継続していくことが求められます。特に、書く活動を適宜授業の中に取り入れて自分の考えをまとめたり説明したりする活動を継続していくことが重要であると考えられます。正誤だけでなく、一人一人の誤答の状況からつまずきの原因を分析し学校全体で学習指導の改善・充実を図ることが必要です。

【算数】

| ＜ 成果がみられる ＞  | ＜ 課題がみられる ＞   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・数量の関係を理解し、数直線上に表すこと</li> <li>・分度器を用いて、<math>180^\circ</math> より大きい角を求める</li> <li>・数量の関係を考察し、分配法則の式に表現する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・十進位取り記数法で表されて数字の大小を理解する</li> <li>・単位量当たりの大きさを求める式と答えの意味を理解する</li> <li>・敷き詰められた正三角形模様の中から条件に合う図形を見つける</li> </ul> |

様々な式について、演算や数値の意味について考える活動が重要です。立式するだけでなく、なぜそのような演算を行ったのかを考える場を増やすことが必要です。割合に関しては継続的に課題となっており、基準量と比較量の関係について理解させる指導の工夫が求められます。問題文を基に、様々な情報を整理して図に表すことも大切です。

【理科】

| ＜ 成果がみられる ＞  | ＜ 課題がみられる ＞   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・電流の流れ方について、他者の予想を基に検流計の針の向きやめもりを選ぶ</li> <li>・食塩の蒸発について、実験結果から言えることだけにしぼってまとめる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の腕が曲がる仕組みについて模型を使って説明する</li> <li>・複数の情報を関連付けながら分析して考察する</li> </ul> |

実験や観察を好む児童が多いので、流れる水の働きや電流については比較的理解できています。しかし、複数の情報をもとに考察したり条件を変えた実験方法を構想することを苦手としている児童が多くなっています。異なる方法で得られた結果を多面的に考えさせる機会を設けたりする授業の工夫が必要です。


◆中学校の結果について

【国語】

| ＜ 成果がみられる ＞   | ＜ 課題がみられる ＞  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落相互の関係に注意し、わかりやすい文章にする</li> <li>・段落の役割を捉え、内容を理解する</li> <li>・文脈に即して漢字を正しく書く</li> <li>・行書の正しい書き方を理解する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を整理して内容を捉える</li> <li>・聞き慣れない語句の意味を正しく理解する</li> <li>・文の成分（主述の関係）や構成を正しく理解して文章を書く</li> </ul> |


「読むこと」「書くこと」を中心とした国語科としての教科指導を継続していくことが求められます。特に、書く活動と話す活動をバランスよく授業に取り入れ、意見を交流することで自分の考えを発展させたり改めたりする活動を継続する必要があります。

【数学】

| ＜ 成果がみられる ＞  | ＜ 課題がみられる ＞   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の技能</li> <li>・等式の性質を用い、目的に応じて変形させる</li> <li>・菱形の特徴を理解する</li> <li>・空間における面と線の間接関係を理解する</li> <li>・空間図形を読み取る</li> <li>・比例のグラフからxの変域に対応するyの変域を求める</li> <li>・座標平面上に点の位置を示す</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平行四辺形の特別な形を選択する</li> <li>・対頂角の証明を正しく記述する</li> </ul>  |

数学用語を正しく理解し、それらを用いて自分の考えを論理的に表現していくことは重要です。説明することの指導においても、記述された内容を重視し、身に付けた数学用語を正しく用いて論理的に説明をする経験を継続していくことが必要です。

【理科】

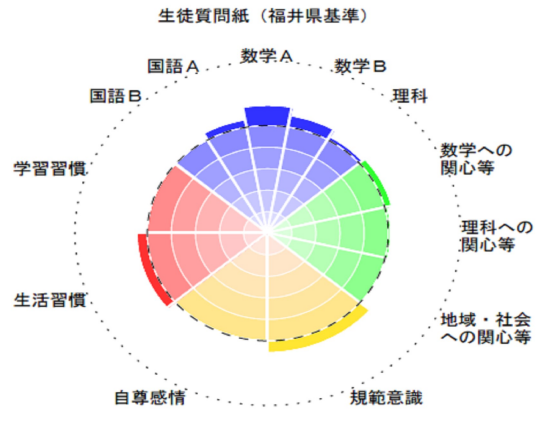
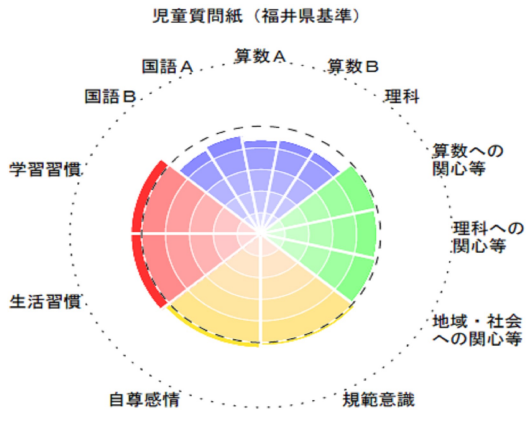
| ＜ 成果がみられる ＞  | ＜ 課題がみられる ＞  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・水溶液の濃度を計算し、特定の濃度のものを選択する</li> <li>・化学変化について、モデルを利用して説明する</li> <li>・神経系の働きについて理解する</li> <li>・燃焼実験において条件制御のために実験を計画する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果より正しく考察し、相違点を指摘する</li> <li>・考察した内容を検討して改善</li> <li>・台風の進路や風向を探求する</li> </ul>  |

地学的領域の天候に関する知識が十分理解できていません。また、風向の観測や台風の進路を決める条件に関する問題にも課題があります。問題を読み、実験から得られた結果を根拠にしてしっかり考察する学習に繰り返し取り組むことが大切です。

### 3. 質問紙調査結果


質問紙調査の結果は、児童生徒の自尊感情や生活習慣、規範意識、学習習慣などの項目を国や県の様子とも照らし合わせながら比較しました。分類の基準は、『2. 学力調査結果』と同様に県の平均とし、上回っている範囲のものを「良好な点」、下回っている範囲のものを「課題点」としました。

(□資料の外側の点線は、見やすさという観点で引いたものであり、何らかの基準を示すものではありません。)  
 <資料1；南越前町内小学校>【平成30年度】      <資料2；南越前町内中学校>【平成30年度】

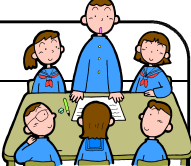


町内の小中学校の児童生徒の特徴を次のようにまとめました。これらの結果を、今後の学校生活で児童生徒のどの面に注目して指導改善してくべきかを検討する資料としていきます。

#### ◆ 小学校

| 良好な点   | 課題点   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分には良いところがあると感じるの子が多い</li> <li>○将来の夢や目標を持っているの子が多い</li> <li>○学校のきまりをしっかりと守っている</li> <li>○毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じ時刻くらいに起きている</li> <li>○家で学校の授業の予習・復習をしている</li> <li>○授業において、課題解決に向けて自分で考えて取り組んだり発表する時には、資料や話の工夫をしたりしている</li> <li>○話し合い活動では、自分の考えを広げたり深めたりすることができる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▼新聞をあまり読まない</li> <li>▼地域の人と関わったりする機会が少ない</li> <li>▼地域や社会での問題や出来事に関心があまりない</li> <li>▼学校での出来事についてあまり話をしない</li> </ul>  |

#### ◆ 中学校

| 良好な点  | 課題点  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○将来の夢や目標を持っているの子が多い</li> <li>○学校のきまりをしっかりと守っている</li> <li>○毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じ時刻くらいに起きている</li> <li>○テレビやインターネットでニュースを見よく見る</li> <li>○任んでいる地域の行事に参加している</li> <li>○地域社会などの行事やボランティア活動に参加している</li> <li>○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持っている</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▼1日当たりの読書時間が少ない</li> <li>▼新聞をあまり読まない</li> <li>▼地域の人と関わったりする機会が少ない</li> <li>▼自分で計画を立て自主的に学習に取り組めない</li> <li>▼地域や社会の出来事や問題にあまり関心がない</li> <li>▼友だちの前で自分の考えや意見を発表することが苦手である</li> <li>▼自分の考えが伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することが苦手である</li> </ul>  |

◆◆ 資料1～3より ◆◆



**小学生は・・・**

- 基本的な生活習慣・学習習慣は定着しています。
- 規範意識・自尊心も身につけています。
- ▼ 教科への関心はあるものの、どの教科においても学力の定着が求められます。落ち着いた学習に取り組むには、基本的な生活習慣の定着が不可欠だと思います。様々な学校教育の場面で、子どもたちが自己有用感を感じられるような手立てを考えることや子どもたちに自信をつけさせるような機会を増やしていくことが、より主体的に学習に取り組もうとする基礎になると考えます。

**中学生は・・・**

- 全ての教科において学力は定着しています。特に、数学においては十分な学力が定着しています。
- 基本的な生活習慣・規範意識が高く、充実した学校生活を送っていることが伺えます。素直に教師の話を聞いたり友達の意見を共有し自らの考えをさらに発展させたりしながら主体的に学習に取り組んでいるようです。

4. 学力調査と学習状況調査の相関関係

学力調査と学習状況調査の結果から分かる相関関係については、小学校・中学校を問わず次のようなことが指摘できます。

| ＜「当てはまる」と答えた児童生徒と、「当てはまらない」と答えた児童生徒の平均正答率の差 |      | ポイント＞ |
|---|------|-------|
| 【全般】  |      |       |
| ○ 自分には良いところがあると思う                           | 23.1 | 1     |
| ○ 夢や希望を持っている                                | 4.4  | 4     |
| ○ 決まりはしっかり守っている                             | 22.6 | 6     |
| 【家庭では】                                      |      |       |
| ○ 毎日、よく似た時間に寝てよく似た時間に起きている                  | 12.0 | 0     |
| ○ 予習や復習をしている                                | 8.8  | 8     |
| ○ 家で、計画を立てて勉強している                           | 2.7  | 7     |
| ○ 新聞を読んでいる                                  | 9.3  | 3     |
| 【学校では】                                      |      |       |
| ○ 課題解決に向けて自分から進んで取り組んでいる                    | 6.5  | 5     |
| ○ 話し合う活動では、自分の考えを深めたり広げたりしている               | 14.8 | 8     |
| ○ 資料や文章、話の組み立てを工夫して発表している                   | 8.5  | 5     |
| 【地域では】                                      |      |       |
| ○ 地域の行事に参加している                              | 4.4  | 4     |
| ○ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある                  | 11.1 | 1     |



◆◆ 資料3と4より ◆◆

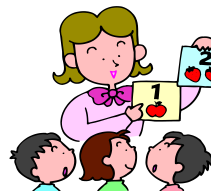
- ① 則正しい生活習慣を身に付けている子は学力も高い傾向にあります。生活のリズムがしっかりととれていることが学習への取り組み方や集中力の持続に良い影響を与えていると考えられます。学習の基礎である「読む」「書く」「考える」力を身につけるためにも、日頃から読書や新聞などを読む習慣を身につけることも大切です。
- ② 学校での授業では、自らの意見の理由を述べたり考え方の説明をしたりする活動を意図的・継続的に取り入れることで文章を書いたり構成したりする力を身につけられるよう工夫をします。表現することに自信を持たせることで、「学ぶ意欲」の高い児童生徒を増やしていきます。
- ③ 集団の関わりの中で認め高め合う学習に取り組んでいくことで自分から積極的に学習や活動に関わろうとする姿勢が学力にも大きく影響します。児童生徒の様々な活動の中で、「褒めて伸ばす」「認めながら伸ばす」指導を継続していきます。
- ④ 「子どもは、地域に育てられる」と言います。日頃から、地域や家庭で大人が温かく関わりながら「ありがとう。助かるよ」「頑張ってるね」などの優しい言葉をかけることで子どもの自己肯定感が育てられ学力の向上にもつながります。

## 5. 今後の対策

### (1) 学校での取り組み

学校では、結果から見てきた課題点を克服する授業、個に応じた授業や指導を学校教育の全般を通して行うことが大切です。調査結果の「良好な点」を伸ばし、「課題点」を克服する指導を展開するために、次の点に力を入れていきます。

- ① 教科や総合・学活等で「児童生徒相互の主体的な学び合い」を意識した、授業を展開するとともに、家庭や地域と連携した「道徳教育」を充実させ、児童生徒の道徳性を高める。
- ② 朝学習、教科学習など、基礎・基本を徹底する時間を充実する。
- ③ 「新聞の活用（NIE）」「読書活動」を推進し、情報を「収集する力」「活用する力」を高める。
- ④ 家庭学習の内容など、個に応じた課題の内容を充実する。
- ⑤ 様々な教育活動の中で、自己肯定感を育成する。



### (2) ご家庭にお願いしたいこと

課題が、「家庭での学習時間・読書の時間が少ない」「自分で計画を立てて勉強できていない」等の状況であることから、学校と家庭が連携し、家庭学習の充実を目指しましょう。

- ① 規則正しい生活習慣を身につける。
  - ・「早寝・早起き・朝ご飯」を習慣にし、テレビやゲーム、スマホはルールを守って使うようにする。
  - ・積極的に家事等に関わらせることで自己有用感を高める。
- ② 家庭学習に、「調べ学習」「繰り返し学習」「読書」などの時間を設け、学習習慣が身につくようにする。
  - ・「調べ学習」とは；学校での学習課題や苦手な教科の予習などを、ノートなどにまとめる学習のこと。
  - ・「繰り返し学習」とは、テストの間違い箇所や計算や漢字の練習を反復する学習のこと。
- ③ 家庭学習の時間は、自分で計画を立て、毎日継続的に一定時間を確保できるようにする。
- ④ 個々の実情に応じ、「読書」や「新聞を読む」時間を設ける。



※積極的に各ご家庭で、関わり合いを持って下さい。

### (3) 地域にお願いしたいこと

地域の中での課題に、「地域や社会に関心がない」「地域の大人との関わりが少ない」などがあります。今一度、次の点に、ご理解とご協力をお願いします。

- ① 温かい言葉を掛けましょう。  
普段から地区の子どもたちに「おはよう」、「気をつけて行ってらっしゃい」、「おかげで助かったよ」、「それはダメだよ」などの温かく優しい言葉を掛けましょう。
- ② 地区の行事を子どもたちにとって魅力あるものにしましょう。
  - ・行事の中に役割があって、人から頼りにされたり、自分が役に立っているという自覚が持てたりするような行事になるよう、「子どもたちの居場所づくり」をお願いします。
  - ・集落子ども会の行事には、小学生のみならず中学生にも積極的に参加するように働きかけて下さい。
- ③ ふるさとに愛着を持てるよう、地域の行事に参加し、ふるさとの良さや「楽しかった」「おいしかった」「感激した」など、地域での価値を見いだせる体験活動の企画などをよろしくをお願いします。

